

水稻の生育状況と今後の管理対策（第3号）

令和8年6月19日
新潟県農林水産部

- ◎ 好天が続いているため、コシヒカリの生育は早まっています。
- ◎ 中干し^{*1}は小ヒビが入る程度で終了し、徐々に飽水管理^{*2}に移行しましょう。
- ◎ 極早生品種では幼穂が見え始めています。極早生・早生品種は早めに幼穂を確認し、適期に穂肥^{*3}を施用しましょう。

*1 中干し（なかぼし）：田の水を落として、一時的に田を乾かすこと。

*2 飽水管理（ほうすいかんり）：土壌を湿潤状態に保つこと

*3 穂肥（ほごえ）：穂が出る前に追肥すること

〔6月18日現在の県内全域の生育概況〕

【指標値（生育のめやす）に比べた生育状況】

- コシヒカリ：草丈「長い」、茎数「多い」、葉数の進み「早い」、葉色「並」
※ コシヒカリでは、葉色が褪め始めているほ場があります。
- 新之助：草丈「並」、茎数「やや多い」、葉数の進み「並」、葉色「並」

〔気象予報と今後の生育見込み〕

- 6月18日発表の北陸地方1か月予報（6月20日から7月19日）は、平均気温、降水量、日照時間ともほぼ平年並と予想されています。
- 極早生品種では幼穂が見え始めており、極早生・早生品種の出穂期は平年より早まる見込みです。

〔今後の管理対策のポイント〕

適期中干しの実施

- 中干しをしていないほ場では、直ちに茎数を確認し、めやすに達したら速やかに中干しを始めましょう。
- 中干しは、根を傷めないよう、田面に小ヒビが入り足跡が残る程度としましょう。
- 中干し効果を高め、速やかにかん水・排水ができるように、溝切りを必ず行いましょう。実施に当たっては、溝を水口と水尻につなげ、適宜補修しましょう。

中干し終了後の管理

- 中干し終了後は、徐々に水を入れ、飽水管理に移行しましょう。
- 極早生・早生品種では、例年より早めに幼穂を確認し、1回目の穂肥を遅れずに施用しましょう。なお、品種ごとに、穂肥施用の時期と量を地域の農業普及指導センターやJA等の技術情報で確認しましょう。

病虫害防除

- いもち病に弱い品種で葉いもちの発生を確認した場合は、薬剤防除をしてください。
- 斑点米カメムシ類の密度を抑制するため、イネ科雑草が実をつける前に畦畔・農道等の草刈りを行きましょう。また、斑点米カメムシ類の増殖源とならないよう、ほ場内にヒエ、ホタルイ等がみられる場合は除草を行きましょう。

中干し程度をめやす



○適度な中干し

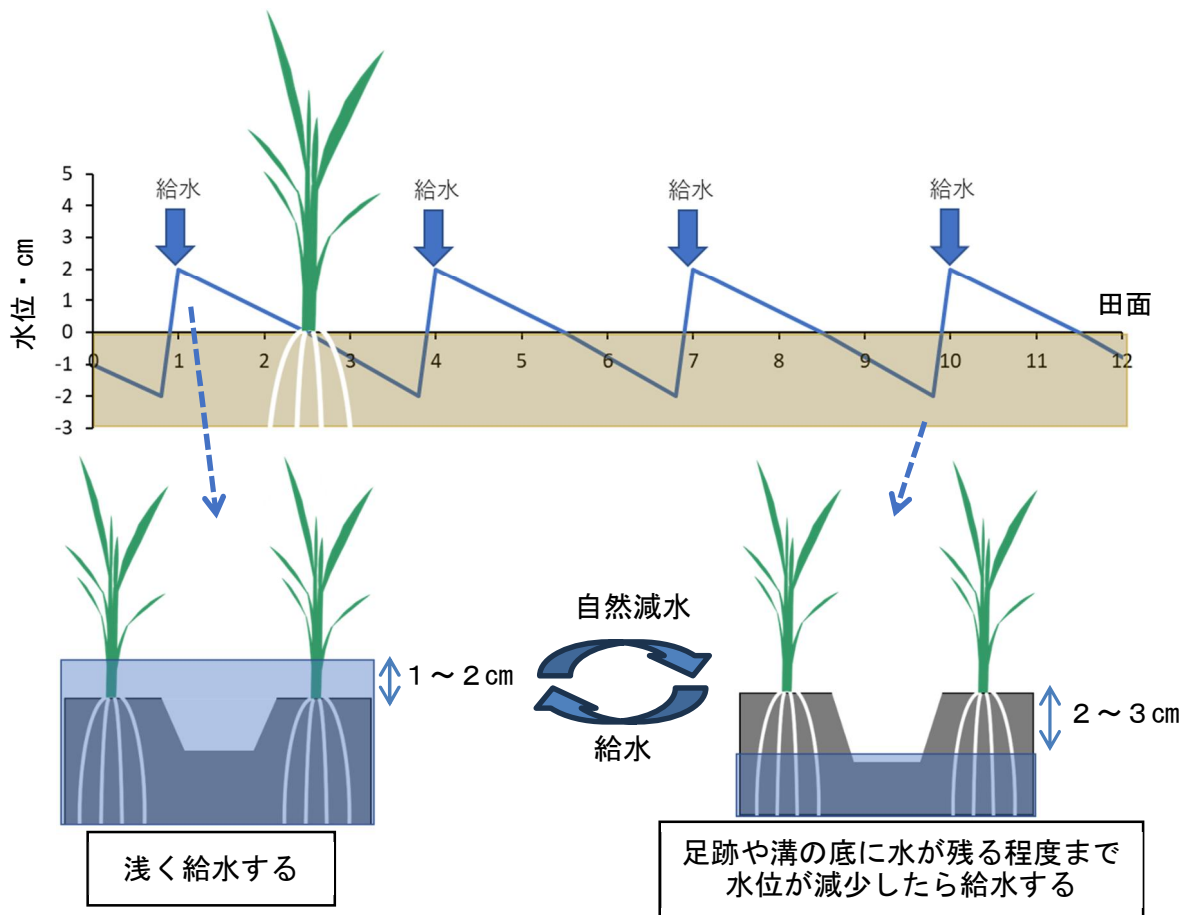
田面に小ヒビが入り、軽く足跡がつく程度



×乾かしすぎ

大ヒビが入ると、根が切断されたり、発根が抑制される

飽水管理のイメージ



熱中症予防

- 気温が高く、特に湿度が高い場合は熱中症発生のリスクが高まります。
- 農作業中は、定期的に水分・塩分を補給し、帽子等で直射日光をさえぎるほか、暑さ対策用品を活用して身体を冷やすなどの熱中症予防対策を必ず行いましょう。
- 気温の高い時間帯に作業しない、単独で作業しない、休憩はこまめにとるなど、十分配慮してください。

○ 今後の管理対策発信予定日 7月1日・9日・22日・28日・31日、8月20日

〔補足資料〕

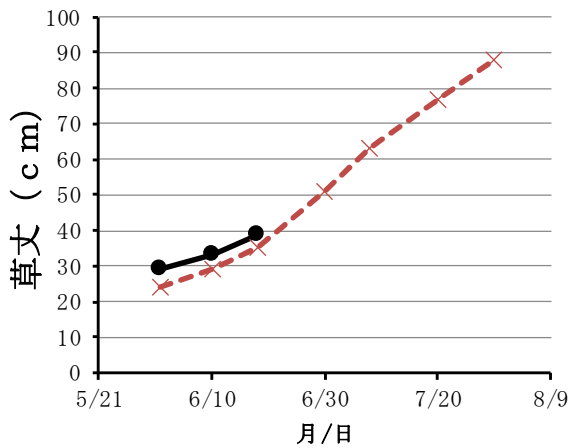
1 農業普及指導センター及び作物研究センターの生育状況（6月18日現在）

コシヒカリ

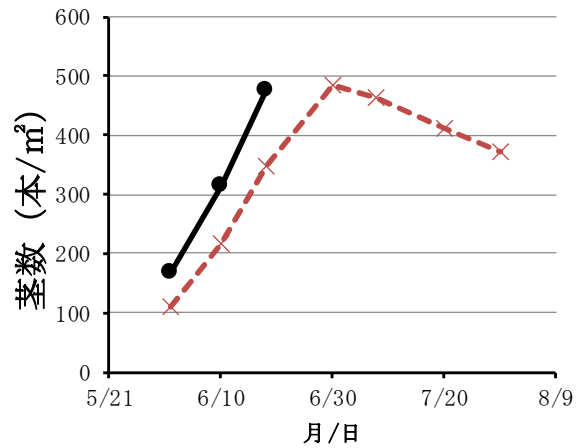
指標値（生育のめやす）に比べ、草丈は「長い」、茎数は「多い」、葉数の進みは「早い」及び葉色は「並」です。

項目	本年値	指標値 (県平均)	指標値 との比較	指標値比・差
草丈	39 cm	35 cm	長い	111%
茎数	476 本/m ²	348 本/m ²	多い	137%
葉数	9.1 葉	8.2 葉	早い	+0.9 葉
葉色 (SPAD 値)	37.9	38.3	並	-0.4

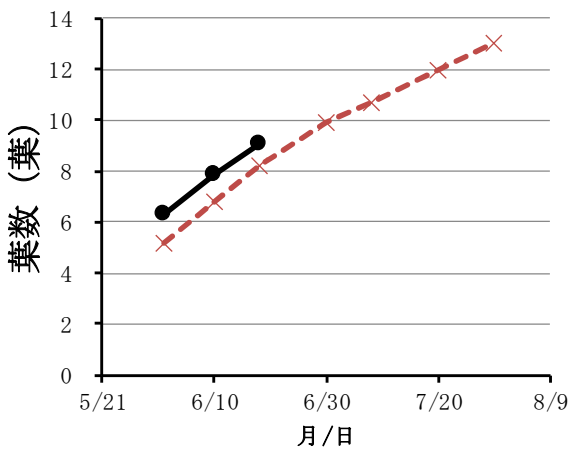
注) 県内全域の14生育調査ほデータの平均値（田植え5月11日、栽植密度16.9株/m²）



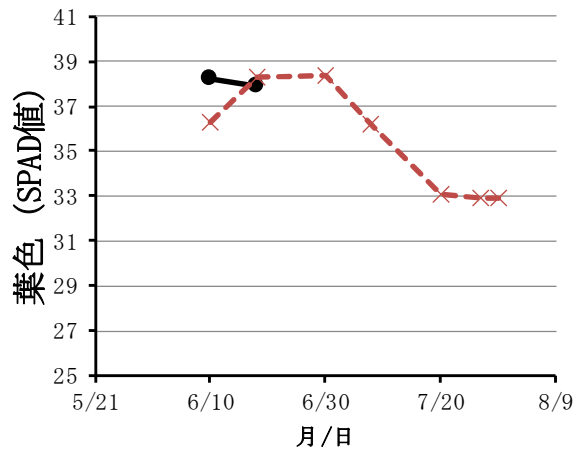
● 本年値 × 指標値
草丈の推移
(県全体)



● 本年値 × 指標値
茎数の推移
(県全体)



● 本年値 × 指標値
葉数の推移
(県全体)



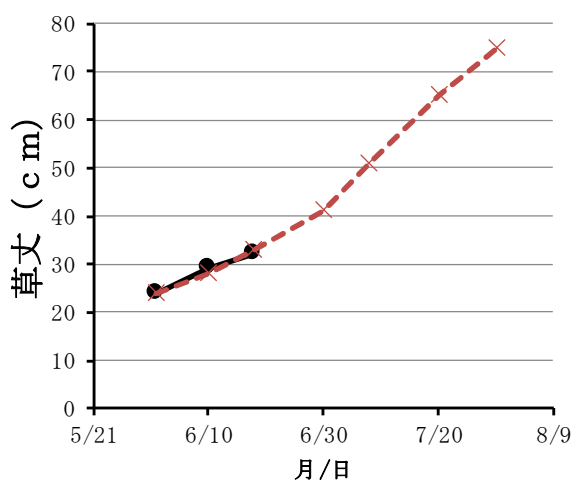
● 本年値 × 指標値
葉色の推移
(県全体)

新之助

指標値（生育のめやす）に比べ、草丈は「並」、茎数は「やや多い」、葉数の進みは「並」及び葉色は「並」です。

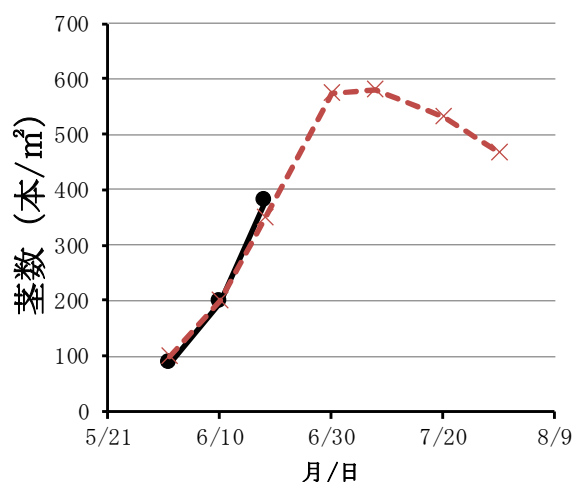
項目	本年値	指標値	指標値との比較	指標値比・差
草丈	32 cm	33 cm	並	97%
茎数	380 本/m ²	350 本/m ²	やや多い	109%
葉数	8.4 葉	8.2 葉	並	+0.2 葉
葉色 (SPAD 値)	37.9	38.2	並	-0.3

注) 県内全域の14生育調査ほデータの平均値 (田植え5月19日、栽植密度16.1株/m²)



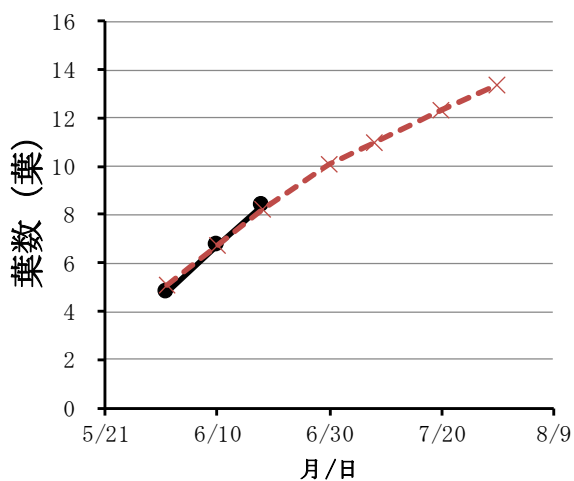
● 本年値 -x- 指標値

草丈の推移
(県全体)



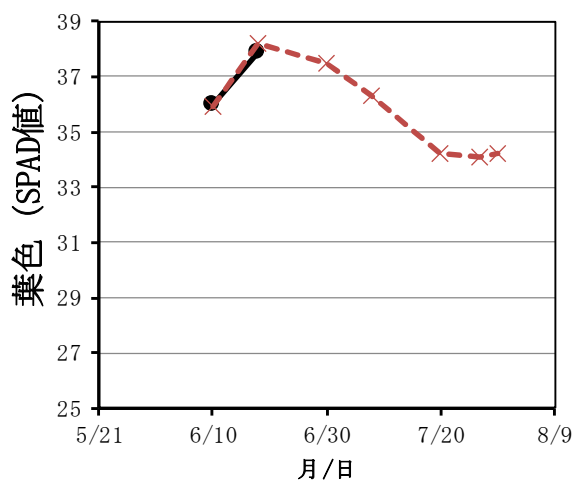
● 本年値 -x- 指標値

茎数の推移
(県全体)



● 本年値 -x- 指標値

葉数の推移
(県全体)



● 本年値 -x- 指標値

葉色の推移
(県全体)

こしいぶき (参考)

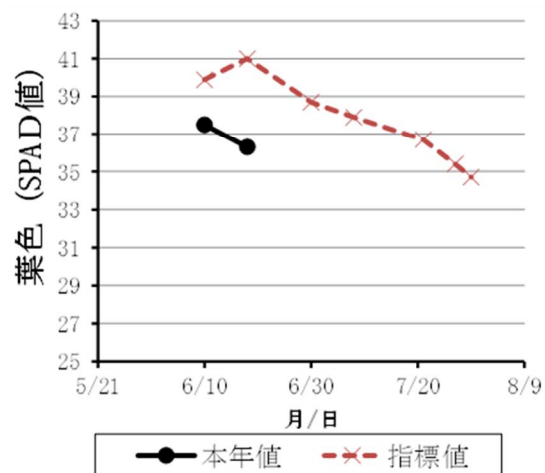
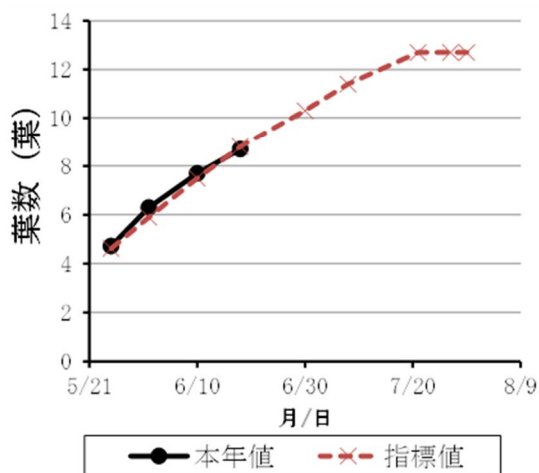
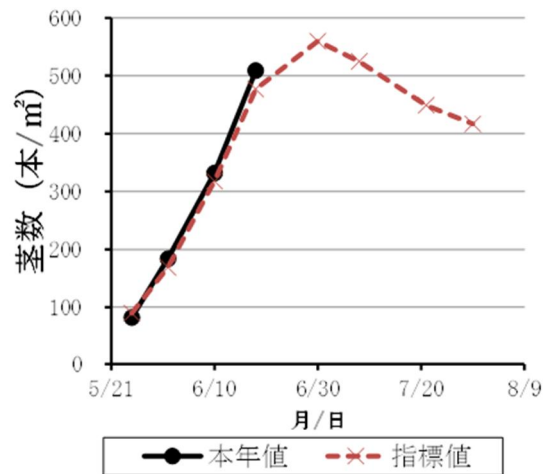
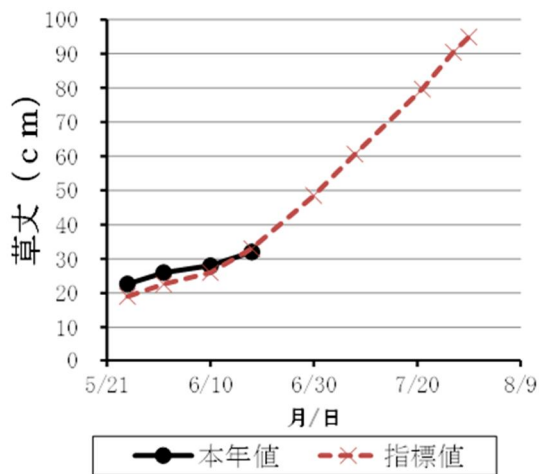
指標値（生育のめやす）に比べ、草丈は「並」、茎数は「やや多い」、葉数の進みは「並」及び葉色は「淡い」です。

項目	本年値	指標値	指標値との比較	指標値比・差
草丈	32 cm	33 cm	並	97%
茎数	509 本/m ²	477 本/m ²	やや多い	107%
葉数	8.7 葉	8.8 葉	並	-0.1 葉
葉色 (SPAD 値)	36.3	41.0	淡い	-4.7

注1) 化学肥料栽培。田植え5月11日、栽植密度20.5株/m²

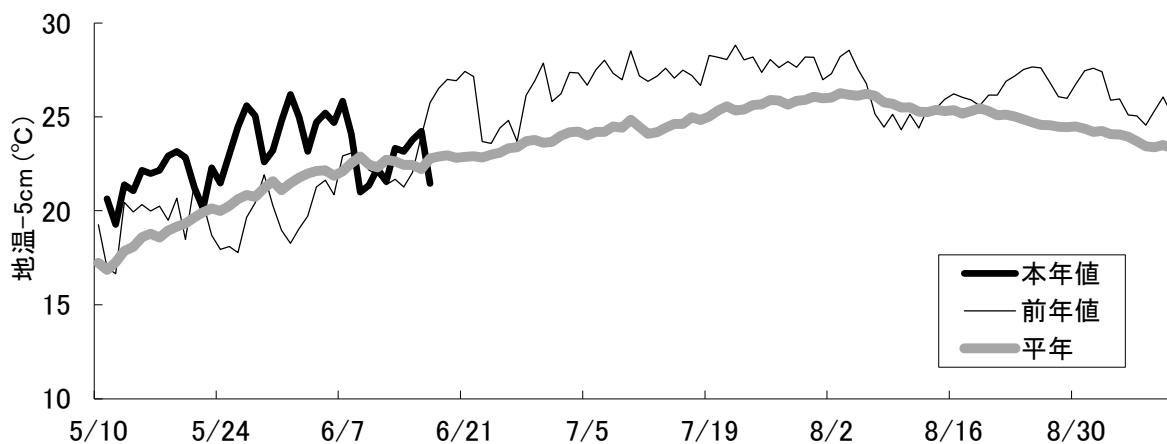
注2) 基肥窒素成分量 3.0kg/10a

注3) 長岡市長倉町（作物研究センター）の生育調査ほデータ

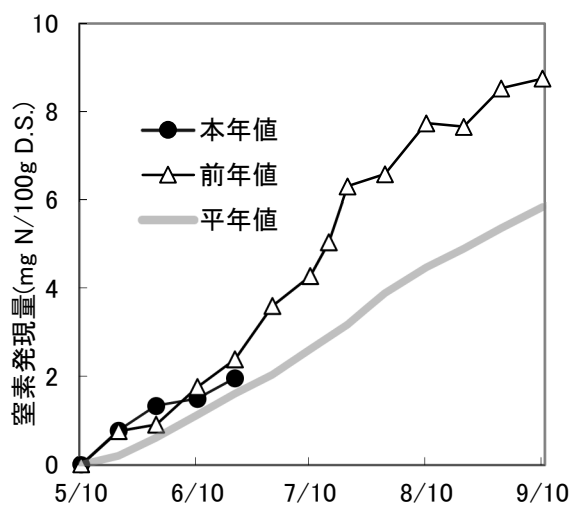


2 地力窒素の発現状況

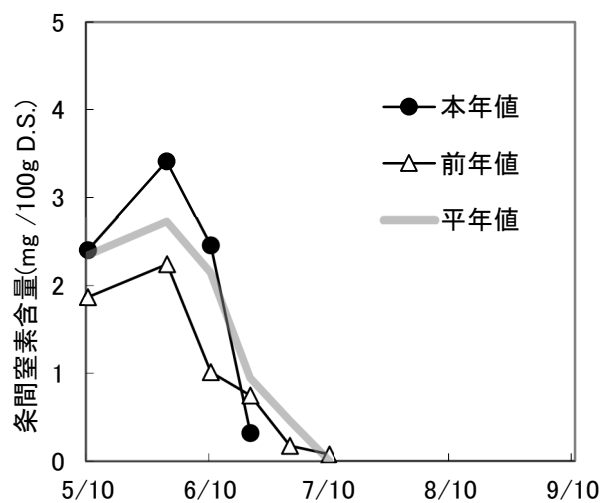
6/9～6/17 の期間の日平均地温は平年差-0.1℃で平年並みに推移しました。この期間の地力窒素発現量は平年並みです。条間窒素含量は平年よりも少なくなりました。



水田地温（5 cm 深）の推移
（農業総合研究所内ほ場、基盤研究部調査）



地力窒素発現量の推移(6月17日)
（農業総合研究所内ほ場、基盤研究部調査）
初期値=0、田植日：5月11日、化学肥料栽培
基肥窒素成分量：3.5 kg/10a



条間窒素含量の推移(6月17日)
（農業総合研究所内ほ場、基盤研究部調査）
田植日：5月11日、化学肥料栽培
基肥窒素成分量：3.5 kg/10a

※「2 地力窒素の発現状況」は、7月9日までの掲載となります。